

## 鳥取市高齢者バス優待制度による事業効果の検証結果

平成 25 年 1 月  
鳥取市福祉保健部高齢社会課  
鳥取大学・持続的過疎社会形成研究プロジェクト

### はじめに

本市では、高齢者を対象とした路線バス定期券等の割引販売を行うことにより、下記要綱の目的に規定する事項について、事業効果を検証するため、平成 22 年 1 月から鳥取市高齢者バス優待制度を実証事業として行なってきた。

この度、実証事業開始から、3 か年を終えるにあたり、その効果の検証を下記のとおり行なった。

#### 鳥取市高齢者バス優待制度補助金交付要綱（抜粋）

（交付目的）

第 2 条 本補助金は、高齢者を対象とした路線バス定期券の割引販売を行う事業者に対して当該割引相当額を補助することにより、高齢者のバス利用による積極的な社会参加を促進するとともに、路線バスの乗車率及び売上額並びに高齢者の外出回数等に運賃割引の与える効果を検証することを目的として交付する。

### 効果検証の方法

本制度の利用者 938 名（平成 23 年 4 月から平成 24 年 7 月まで高齢者向け定期券購入者）の方に「高齢者バス優待制度の利用の経歴」、「制度の利用による外出行動の変化」等の設問からなるアンケートを送付し、787 名（回収率 83.9%）の方から回答いただいた集計結果より、①社会参加の促進、②外出回数、③路線バスの乗車率、④路線バスの売上額に与えた効果の検証を行った。（アンケート調査報告書 別添）

また、本制度は、介護予防事業の側面を有しており、本市の 2 次予防事業対象者把握事業の各種データを活用し、介護予防効果の効果検証を行った。

なお、本制度の効果検証においては、鳥取大学大学院工学研究科 谷本

圭志教授（鳥取大学・持続的過疎社会形成研究プロジェクト代表）との協働により、各種の検証を行った。

## 効果の考察

### ～アンケート結果からの考察～

#### ① 社会参加の促進 ⇒ アンケート結果から（問4、5）

アンケート問4（複数回答可）において、本制度を利用する前と比べて外出の変化を調査した結果、回答総数787名のうち、外出回数が増えた方が51%、外出先が増えた方が30%、気軽に外出できるようになった68%、外出しなくなった16%となっており、特に変化はない18%と無回答の3%を除く、79%の方において、社会参加への意欲の増進及び行動変容が確認でき、一定の効果が確認できた。

アンケート問5（複数回答可）において、アンケート問4外出回数及び外出先が増えた方のうち（回答総数452名）、どのような外出が増えたか調査した結果、買い物が81%、通院が54%、友人等との面会が43%、趣味や娯楽が42%、役所や銀行などの公共施設が39%、その他が9%、無回答が4%となっている。

#### ② 外出回数 ⇒ アンケート結果から（問4）

アンケート問4（複数回答可）において、本制度を利用する前と比べて外出の変化を調査した結果、回答総数787名のうち、外出回数が増えた方が51%、外出先が増えた方が30%となっており、外出回数に与える一定の効果が確認できた。

#### ③ 路線バスの乗車率 ⇒ アンケート結果（問3）及びバス事業者の乗車者数調査

アンケート問3において、いつからバスを利用しているかを調査した結果、回答総数787名のうち、175名の方が、本制度が始まってからとなっており、本制度の実施により、路線バスの新規利用者を施策誘導したことが確認され、アンケート問4、5の結果を併せて考慮した場合、一定の効果が確認できた。

なお、バス事業者による乗車者数調査（平成19～23年度 本項末尾記載）からは、微減傾向のもと平成22年度をボトムとし、微増に転じたことが見て取れるが、本制度との因果関係を特定するには至らなかった。

④ 売上額 ⇒ アンケート結果（問3）、（問6）

新規売上額への影響

問3から、路線バスの新規利用者175名の方が、1回のみ購入したと仮定し、各フリーパスの販売実績からその新規売上金額は3,175,000円（うち補助額952,000円）と推計され、売上額への一定の効果が確認できた。

なお、売上額の増加は、バス事業の継続性並びに本市からバス事業者に拠出されている生活バス路線運行費等補助金の軽減に寄与する。

ただし、制度開始前からの路線バスの利用者のフリーパスへの切り替えによる売上額に対する影響は推計できないため、全体としての売上額への影響は定かではない。

新規売上額の継続性

アンケート結果（問3）において、175名の方が、路線バスの新規の利用者となったことが確認され、また、アンケート結果（問6）において、今後も制度を利用するかの問いで、90%の方が年間を通し、継続利用を希望することが確認できた。すると、新規の利用者が今後も路線バスの利用を継続した場合、各フリーパスの販売実績に基づいてその利用増加に対する1年当たりの売上額の増加を推計すると6,288,000円（うち補助金1,886,400円）となる。

※バス事業者による乗車者数調査（鳥取県東部）

日ノ丸自動車（株） （単位：人）

区分	平成19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
一般路線	2,053,852	1,902,861	1,797,631	1,685,048	1,726,410	
高速バス	東京線	15,186	16,114	15,180	13,702	13,697
	広島線	23,640	22,478	20,693	18,087	14,641
	福岡線	7,990	7,863	7,053	6,899	7,395
ループ麒麟獅子	17,616	16,544	18,446	17,262	19,383	
100円循環バス	124,115	122,144	126,821	136,945	148,483	

（注）鳥取県東部（鳥取市、岩美郡、八頭郡）圏内

資料）日ノ丸自動車（株）

日本交通（株） （単位：人）

区分	平成19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
一般路線	1,320,019	1,370,074	1,043,079	1,036,703	1,065,619	
高速バス	東京線	7,522	6,535	9,016	7,900	7,894
	大阪神戸線	216,886	217,540	219,630	217,428	256,323
	京都線	28,158	29,047	28,947	29,828	30,233
	広島線	23,108	22,647	21,132	18,156	14,658
	福岡線	8,020	7,944	7,063	7,052	7,457
定期観光バス	11,577	28,788	28,557	28,336	29,322	
100円循環バス（1日平均）	360.0	368.0	347.0	349.3	305.3	

（注）定期観光バス乗客数には、ループ麒麟獅子の乗客数を含む。

鳥取県東部圏内

資料）日本交通（株）

### ～介護予防からの考察～

2次予防事業対象者把握事業の各種データを活用し、バス等公共交通機関の利用者とそれらの非利用者(65歳以上の年齢別・男女別)について、統計手法を用いた介護予防効果(健康維持)における推計を行ったところ、バス等公共交通機関の利用者の優位性が確認された。

前項において、本制度の利用により社会参加の促進や外出機会の増加が図られたことは確認できたところではあるが、これらの効果並びに公共交通機関の利用そのものが直接的な要因となり、この推計結果となったかは、あらためて、調査の内容・手法、活用サンプル数の多寡等の諸条件の精査に努め、さらに精緻な調査を行う必要がある。

### 今後の取り組み

前2項から、要綱に規定する実証項目及び介護予防における相乗効果も含め、一定以上の効果があったものであるとの検証結果であった。

よって、今後においては、本制度の本格実施を目指すこととする。

なお、本制度の本格実施後も、本市における路線バス等の公共交通機関をはじめとする社会サービスの変動や高齢者の方々のライフスタイルの変化を注視しながら、これまでと同様に効果検証を実施する必要があると考えられる。